

# 宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成24年1月～3月期

## 目 次

1. 県下産業全体の景況 .....	2
(1) 主要景況項目のあらまし .....	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし .....	3
(3) 今後の見通しについて .....	4
2. 県下産業別の景況 .....	5
(1) 製造業の動向 .....	5
(2) 建設業の動向 .....	8
(3) 小売業の動向 .....	11
(4) サービス業の動向 .....	14

平成24年4月

宮城県商工会連合会

# 中小企業景況調査報告書

平成 24 年 1 月～3 月期

## [調査要領]

### 1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区  
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、多賀城・七ヶ浜、加美、遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業

### 2. 調査対象期間

平成 24 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は平成 24 年 3 月 1 日とした。

### 3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

### 4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	34
建 設 業	25
小 売 業	44
サービス業	47
合 計	150

### 5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

# 1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 24 年 1 月～3 月)の調査においては、産業全体の業況D Iは、前期より 8.5 ポイント改善し $\Delta$ 13.1 (前期 $\Delta$ 21.6) となり、東日本大震災からの回復の動きが見られた。

建設業は全国的には停滞気味に推移するなか、本県は震災の復旧工事が続いており業況D Iは 36.0 (前期 24.9) と 11.1 ポイント改善し、全国値を 58.7 ポイント上回った。

小売業は売上額D Iが 25.8 ポイント改善し、採算D Iは 3.3 ポイント悪化したが、業況D Iは 9.7 ポイント改善し全国値を 24.5 ポイント上回った。

サービス業は売上額D Iが 33.5 ポイント、採算D Iも 17.1 ポイント改善し、業況D Iは $\Delta$ 19.6 (前期 $\Delta$ 33.3) と 13.7 ポイント改善し、全国値を 16.0 ポイント上回った。

しかしながら製造業は、平成 17 年度基準による平成 24 年 1 月の鉱工業生産指数が全国 95.3、東北 93.5 に対し宮城は 73.9 であり、今期の業況D Iは $\Delta$ 29.4 (前期 $\Delta$ 26.6) と小幅ながら 2.8 ポイント悪化していることから、復興の遅れが感じられた。

## (1) 主要景況項目のあらまし

### ① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額) D Iは、製造業においては 6.7 ポイント、建設業は 8.2 ポイント悪化し、反面、小売業が 25.8 ポイント、サービス業は 33.5 ポイント改善し、全産業D Iとしては $\Delta$ 6.2 (前期 $\Delta$ 21.2) と 15.0 ポイント改善した。

### ② 採算の状況

採算D Iは、製造業において 7.0 ポイント、小売業は 3.3 ポイント悪化し、建設業が 2.6 ポイント、サービス業は 17.1 ポイント改善し、全産業D Iとしては $\Delta$ 19.5 (前期 $\Delta$ 23.1) と 3.6 ポイント改善した。

### ③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業は 17.6%で前期と比較し 12.7 ポイント、建設業は 20.0%で 0.8 ポイント、小売業は 9.1%で 4.9 ポイント、サービス業は 10.6%で 7.2 ポイントと全産業において減少した。

## (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

### ① 売上額（完成工事額）

売上額（完成工事額）D Iは、宮城の建設業が37.6（前期45.8）と8.2ポイント悪化したが、依然として全国値を55.5ポイントと大幅に上回った。宮城の小売業は△6.8（前期△32.6）となり25.8ポイント改善し、全国値を37.0ポイント上回った。サービス業も宮城は△13.1（前期△46.6）と33.5ポイント改善し全国値を20.5ポイント上回った。

しかしながら、宮城の製造業は△27.2（前期△20.5）となり6.7ポイント悪化し全国値を4.3ポイント下回った。

表一 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I値）

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 18.9	△ 22.9	△ 22.8	△ 17.4	△ 20.5	△ 27.2
建 設 業	△ 17.3	△ 17.9	3.3	5.5	45.8	37.6
小 売 業	△ 42.9	△ 43.8	△ 42.2	△ 32.7	△ 32.6	△ 6.8
サービス業	△ 35.2	△ 33.6	△ 34.3	△ 26.1	△ 46.6	△ 13.1

### ② 採 算

採算D Iは、宮城の建設業が20.0（前期17.4）と2.6ポイント改善し全国値を49.1ポイント上回り、小売業も△29.6（前期△26.3）と3.3ポイント悪化したが全国値を16.2ポイント上回り、サービス業も△17.0（前期△34.1）と17.1ポイント改善し全国値を20.5ポイント上回った。

しかしながら、宮城の製造業は△39.4（前期△32.4）と7.0ポイント悪化し全国値を9.2ポイント下回った。

表二 採算の状況（前年同期比・D I値）

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 27.4	△ 30.2	△ 30.0	△ 29.1	△ 32.4	△ 39.4
建 設 業	△ 29.1	△ 29.1	△ 13.6	△ 13.7	17.4	20.0
小 売 業	△ 43.5	△ 45.8	△ 44.3	△ 41.0	△ 26.3	△ 29.6
サービス業	△ 37.6	△ 37.5	△ 35.7	△ 28.1	△ 34.1	△ 17.0

### (3) 今後の見通しについて

#### ① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）D I の来期見通しは、今期D I を改善させた建設業が 25.2 ポイント、小売業が 34.0 ポイント、サービス業が 3.9 ポイント悪化すると予測され、今期D I を悪化させた製造業は 30.5 ポイント改善すると予測された。

採算D I の来期見通しについても建設業が 11.7 ポイント、小売業は 2.2 ポイント、サービス業は 15.6 ポイント悪化すると予測され、製造業は 17.5 ポイント改善すると予測された。

#### ② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額（完成工事額）D I については、全産業ともに全国の予測値の変動幅が小幅であるのに対し、宮城はサービス業を除く他の産業の変動幅は大幅となった。

また、来期見通しについては製造業が 22.4 ポイント、建設業が 38.2 ポイント、小売業が 1.4 ポイント、サービス業が 14.4 ポイントと全ての産業で宮城が全国を上回る見通しとなった。

採算D I についても、売上額（完成工事額）D I と同様の趨勢であり、来期見通しについては、宮城の予測値はサービス業を除き全国を上回る見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 22.9	△ 19.1	△ 27.2	3.3
建 設 業	△ 17.9	△ 25.8	37.6	12.4
小 売 業	△ 43.8	△ 42.2	△ 6.8	△ 40.8
サービス業	△ 33.6	△ 31.4	△ 13.1	△ 17.0

表－4 採算来期見通し (D I 値)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 30.2	△ 24.6	△ 39.4	△ 21.9
建 設 業	△ 29.1	△ 27.1	20.0	8.3
小 売 業	△ 45.8	△ 39.8	△ 29.6	△ 31.8
サービス業	△ 37.5	△ 32.4	△ 17.0	△ 32.6

## 2. 県下産業別の景況

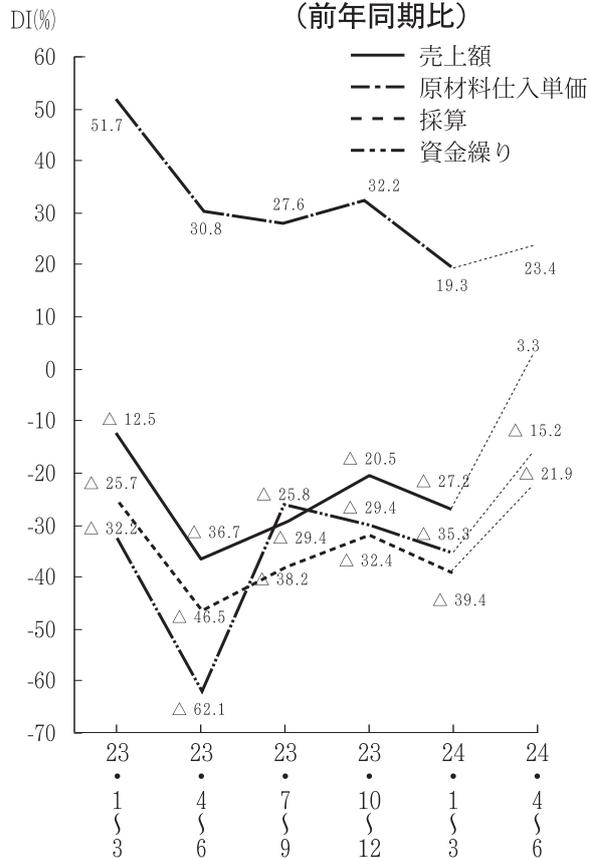
### (1) 製造業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

売上（加工）額DIは、今期△27.2（前期△20.5）となり6.7ポイント、採算DIも△39.4（前期△32.4）と7.0ポイント、資金繰りDIも△35.3（前期△29.4）と前期比5.9ポイント悪化した。

原材料仕入単価は19.3（前期32.2）と12.9ポイント改善した。

図1-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



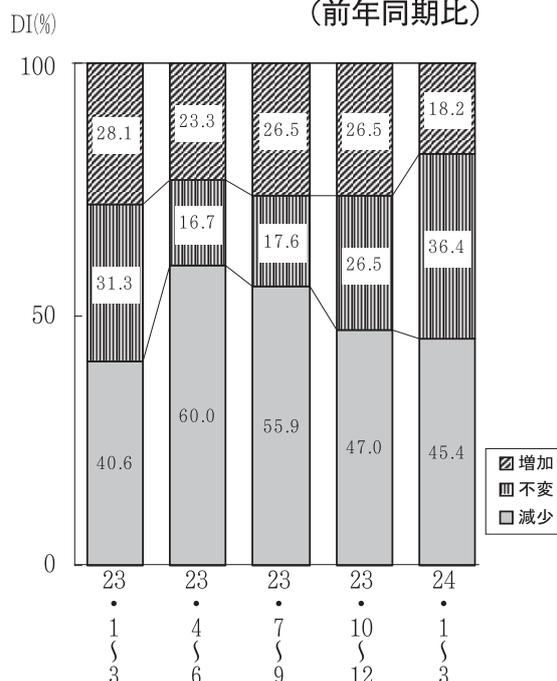
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の18.2%（前期26.5%）と8.3ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は45.4%（前期47.0%）と1.6ポイント減少した。

結果として売上（加工）額DIは△27.2（前期△20.5）となり前期比6.7ポイント悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況  
(前年同期比)

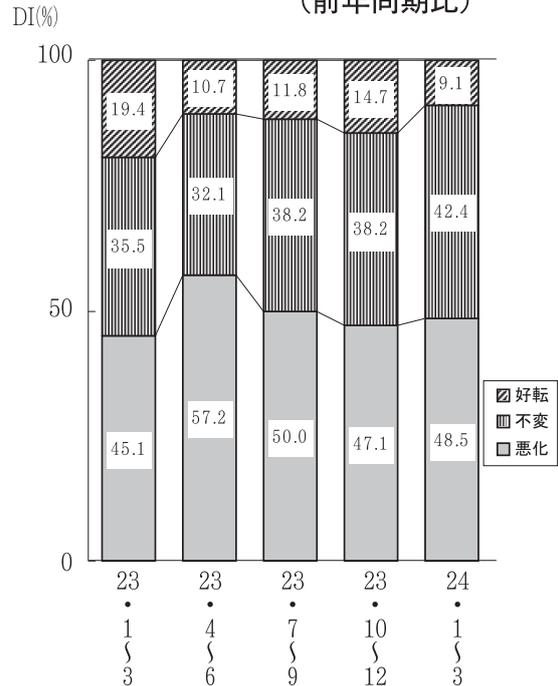


(b) 採算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の9.1%(前期 14.7%)で5.6ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は48.5%(前期 47.1%)で1.4ポイント増加した。

その結果、採算DIは△39.4(前期△32.4)となり前期比7.0ポイント悪化した。

図1-3 採算の状況  
(前年同期比)



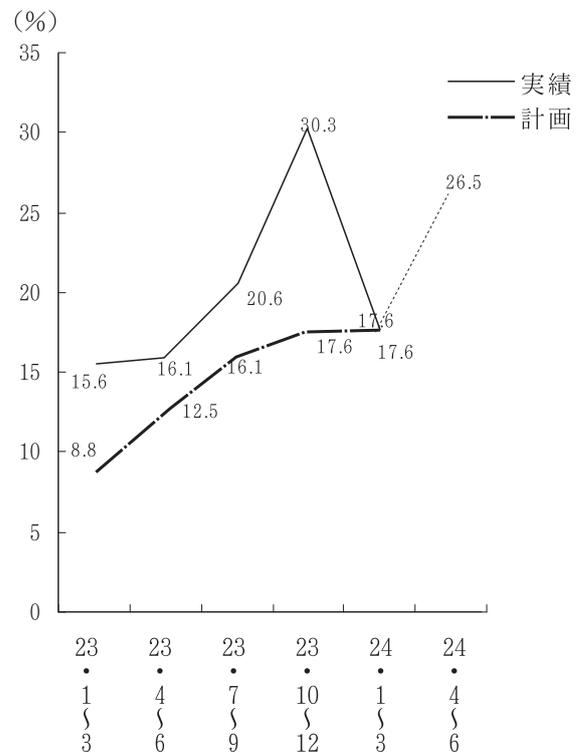
(c) 設備投資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の17.6%(前期 30.3%)で12.7ポイント減少した。

その設備内容は生産設備、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の26.5%で、その設備内容は土地、工場建物、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

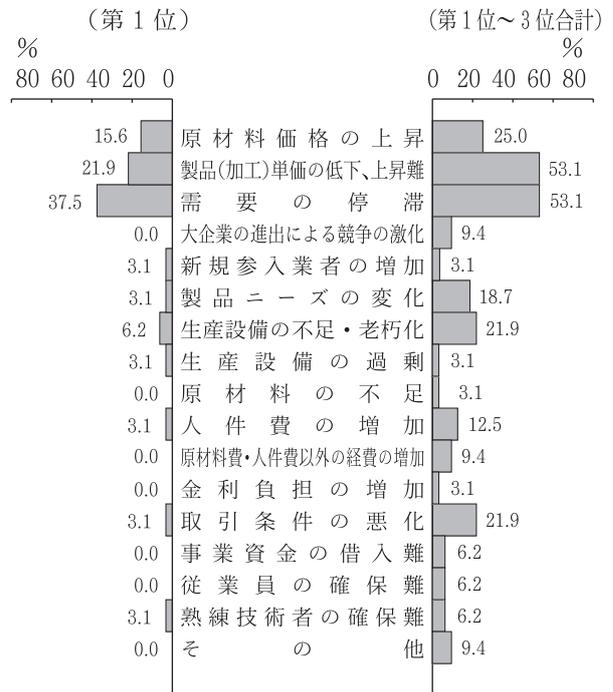


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(37.5%)、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」(21.9%)、そして「原材料価格の上昇」(15.6%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」と「製品(加工)単価の低下、上昇難」が53.1%(複数回答以下同じ)と同率となり、次いで「原材料価格の上昇」(25.0%)、そして「生産設備の不足・老朽化」と「取引条件の悪化」が21.9%と同率で続いた。

図1-5 経営上の問題点

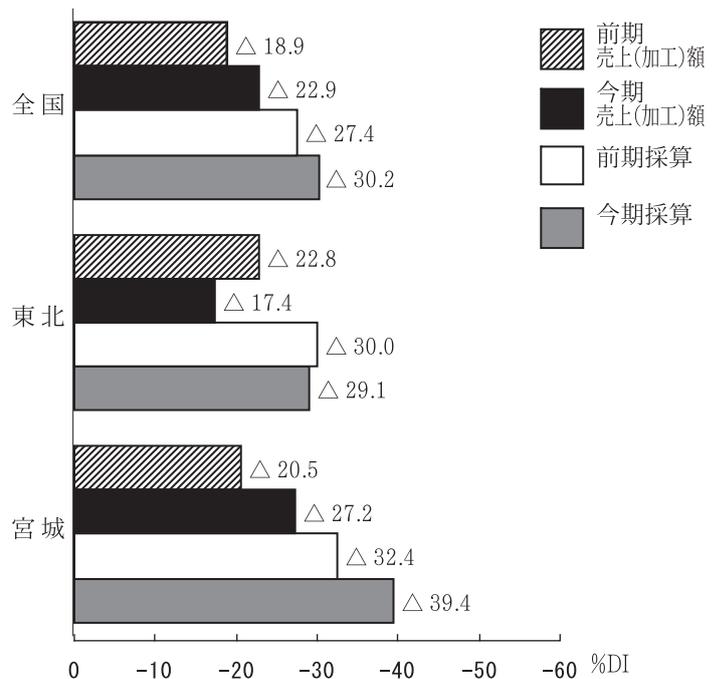


### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

大企業の業績悪化や工場撤退など全国的に停滞傾向が続く中、東北は売上DI、採算DIともに好転したが、全国、宮城は売上DI、採算DIともに悪化した。

特に宮城は自動車関連企業を除くと、本県回答事業所から「復興が遅れ生産体制が整わない」とのコメントもあり、震災からの復興の遅れが窺えた。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



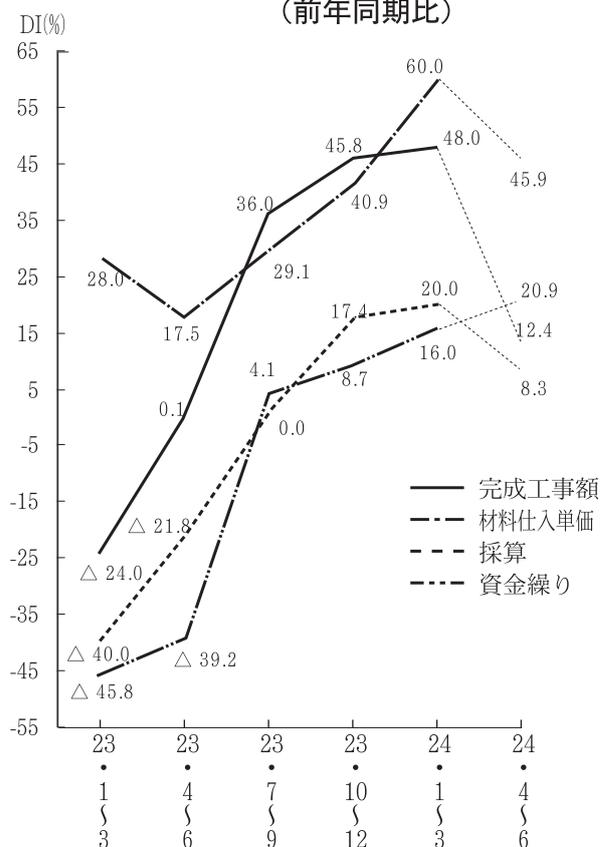
## (2) 建設業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらまし

採算D Iは20.0（前期17.4）と2.6ポイント、資金繰りD Iも16.0（前期8.7）と7.3ポイント改善した。

完成工事（請負工事）額D Iは37.6（前期45.8）で8.2ポイント、材料仕入単価D Iも60.0（前期40.9）と19.1ポイント悪化し、特に「材料価格の上昇」は経営上の大きな問題となっている。

図2-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



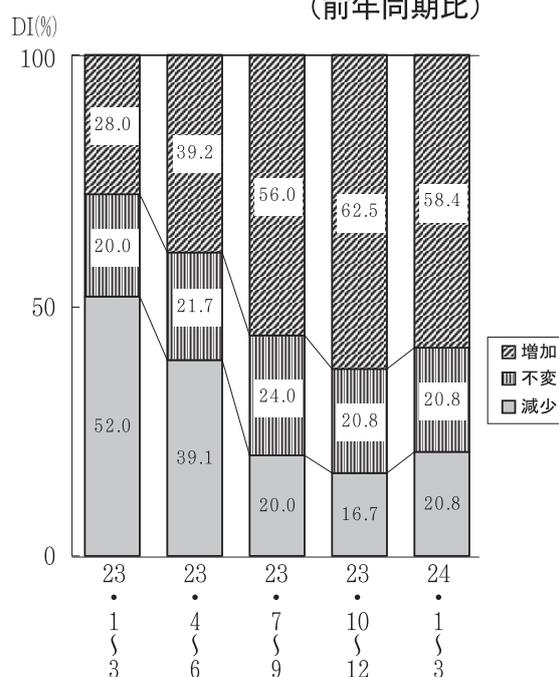
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の58.4%（前期62.5%）であり、4.1ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は20.8%（前期16.7%）と4.1ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは37.6（前期45.8）と8.2ポイント悪化した。

図2-2 完成工事額の状況  
(前年同期比)

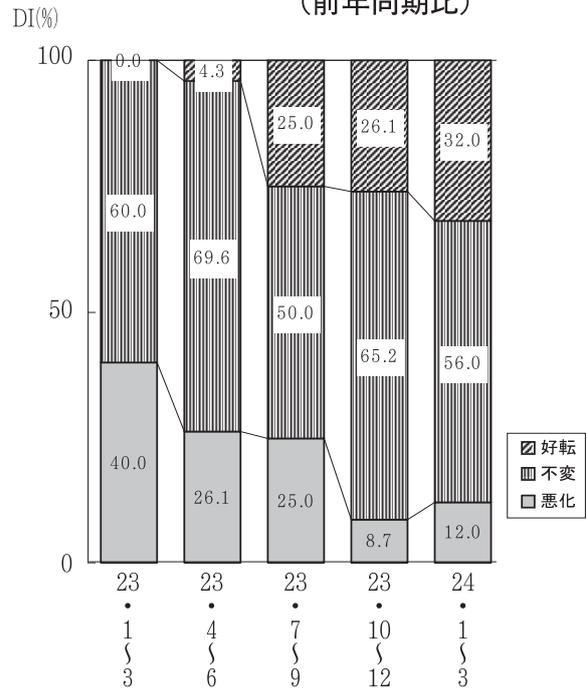


### (b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の32.0%（前期26.1%）であり5.9ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は全体の12.0%（前期8.7%）であり、3.3ポイント増加した。

その結果、採算DIは20.0（前期17.4）となり、前期比2.6ポイント向上した。

図2-3 採算の状況  
(前年同期比)



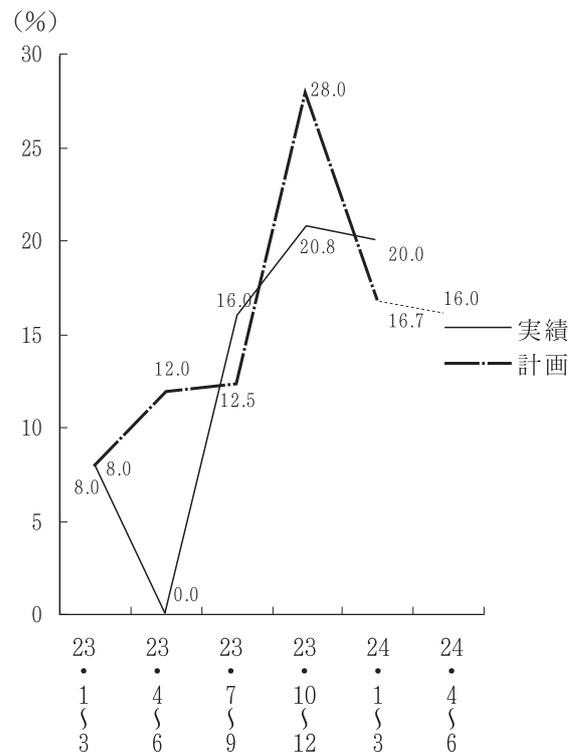
### (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の20.0%（前期20.8%）で0.8ポイント減少した。

その設備内容は建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の16.0%で、その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器となっている。

図2-4 設備投資の状況

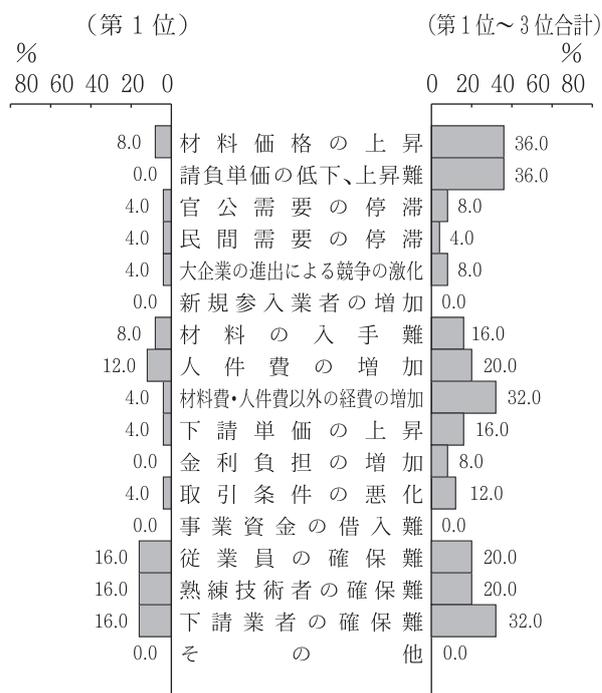


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「下請業者の確保難」、  
「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」  
が16.0%と同率となり、次いで「人件費の増  
加」(12.0%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料  
価格の上昇」と「請負単価の低下、上昇難」  
が36.0% (複数回答以下同じ) と同率とな  
り、次いで「下請業者の確保難」と「材料  
費・人件費以外の経費の増加」が32.0%と  
続いた。

図2-5 経営上の問題点

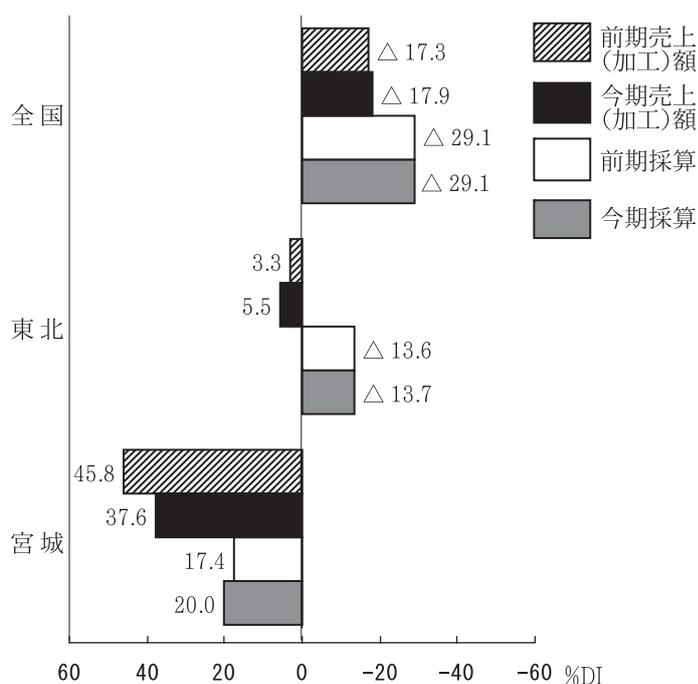


### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国は低迷状態が続き、完成工事(請負工  
事)額D I、採算D Iともに変動がなかった  
が、東北は完成工事(請負工事)額D Iを若  
干改善させプラス基調を続けた。

宮城は完成工事(請負工事)額D Iを8.2ポ  
イント減少させたが、採算D Iは2.6ポイン  
ト改善させており、本県回答事業所から「震  
災関係の需要は引き続きあり、職人の確保が  
課題」とのコメントもあった。

図2-6 全国東北宮城売上  
完成工事額・採算比較



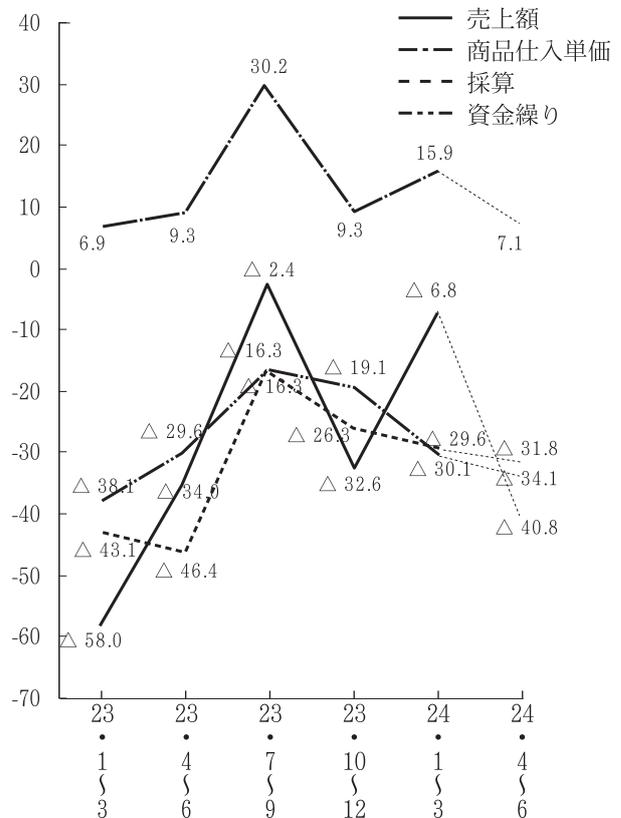
### (3) 小売業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

宮城の小売業は、売上額D Iを△6.8（前期△32.6）と25.8ポイント改善した。

しかしながら、その他の項目は採算D Iが△29.6（前期△26.3）で3.3ポイント、商品仕入単価D Iは15.9（前期9.3）で6.6ポイント、資金繰りD Iも△30.1（前期△19.1）と11.0ポイント悪化した。

図3-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



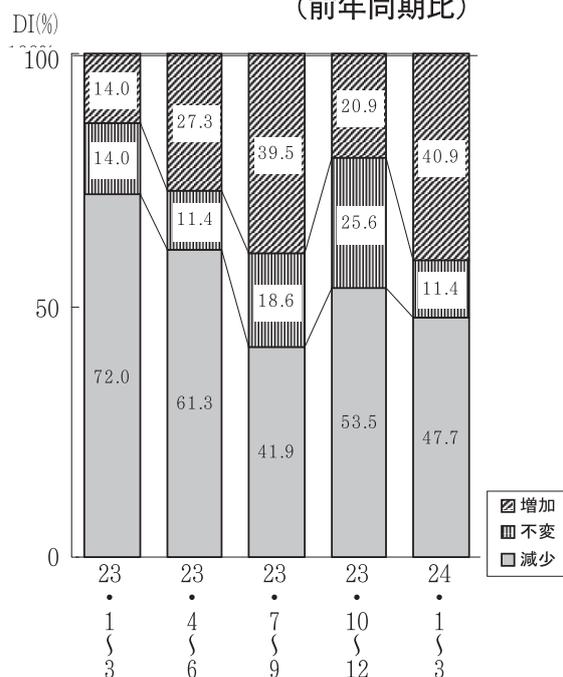
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の40.9%（前期20.9%）と20.0ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は全体の47.7%（前期53.5%）と5.8ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは△6.8（前期△32.6）と前期比25.8ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況  
(前年同期比)

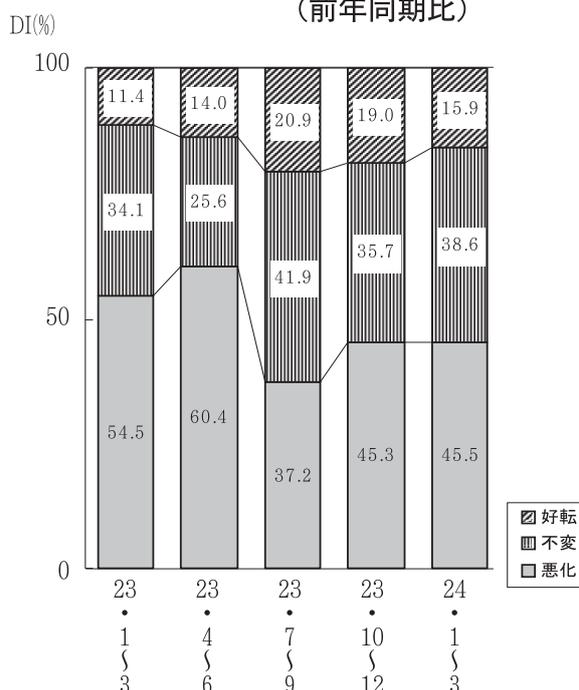


### (b) 採算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の15.9%（前期19.0%）と3.1ポイント減少し、「悪化・低下」の回答は全体の45.5%（前期45.3%）で0.2ポイント増加した。

その結果、採算DIは、△29.6（前期△26.3）となり、前期比3.3ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況  
(前年同期比)



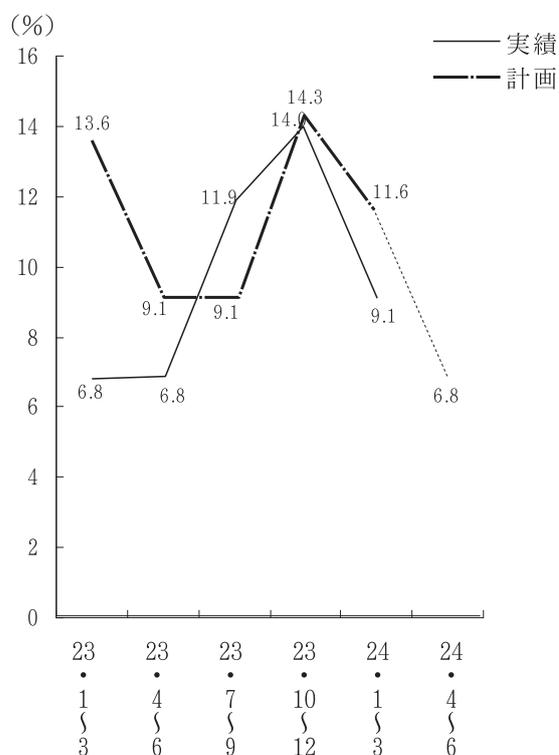
### (c) 設備投資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の9.1%（前期14.0%）で4.9ポイント減少した。

その設備内容は土地、店舗、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業は6.8%で、その内容は店舗、販売設備、付帯施設を想定している。

図3-4 設備投資の状況

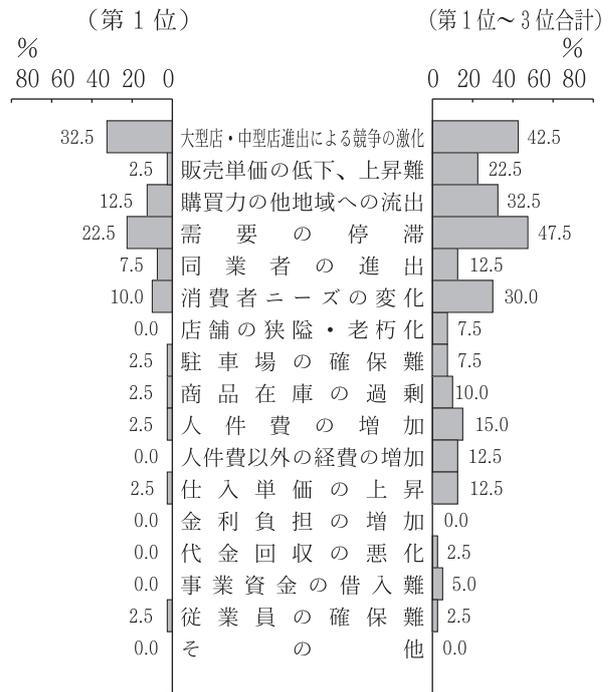


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(32.5%)、ついで「需要の停滞」(22.5%)、「購買力の他地域への流出」(12.5%)、「消費者ニーズの変化」(10.0%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計は、「需要の停滞」(47.5% (複数回答以下同じ))、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」(42.5%)、「購買力の他地域への流出」(32.5%)、「消費者ニーズの変化」(30.0%)と続いた。

図3-5 経営上の問題点

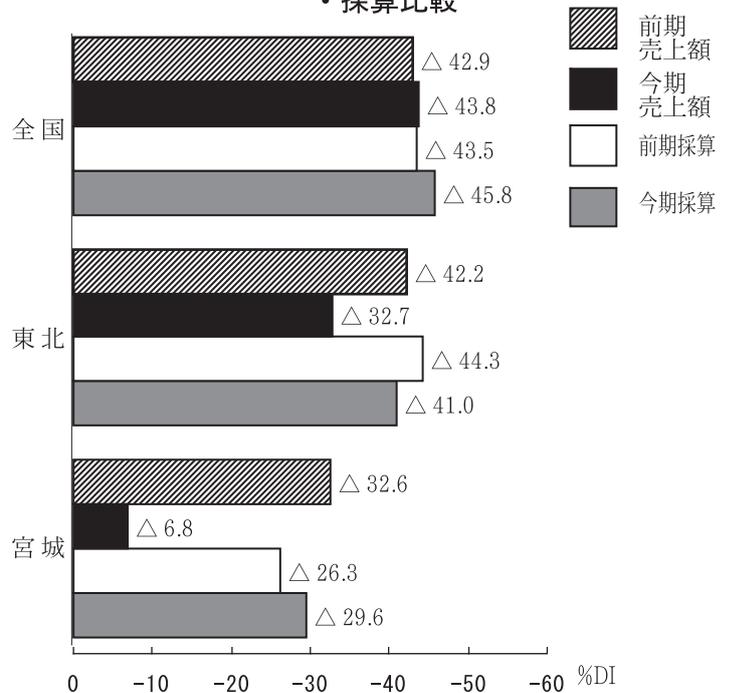


### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国的に消費マインドが低下しており全国の売上額DI、採算DIはともに悪化したが、東北は改善傾向にあり、特に宮城は売上額DIを25.8ポイント好転させた。

本県回答事業所からは「震災により復興作業員や、ボランティアの来店客数が伸び売上は安定しているが、作業が終わり今後の先行きが不安である」とのコメントもあった。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較



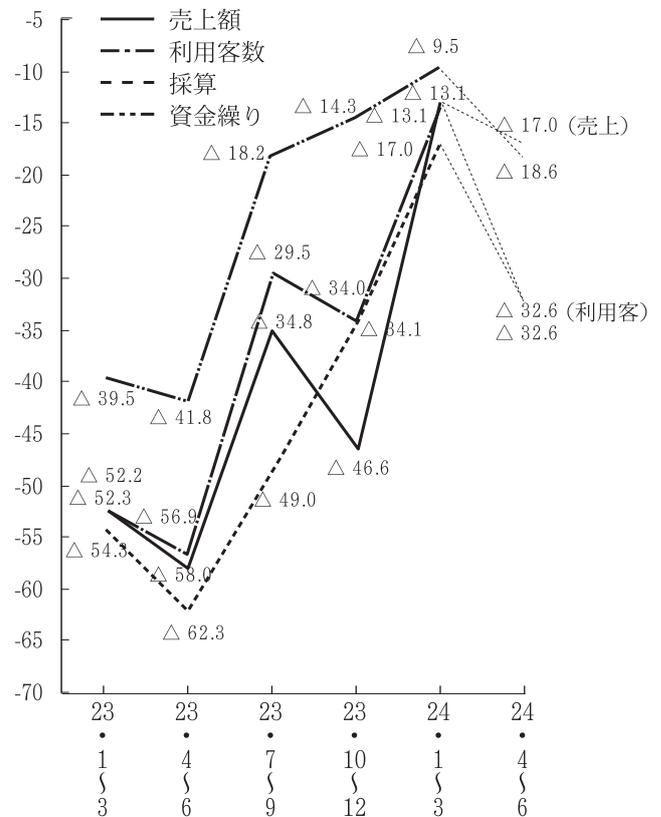
## (4) サービス業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらし

売上(収入)額D Iが $\Delta 13.1$ (前期 $\Delta 46.6$ )で33.5ポイント、利用客数D Iは $\Delta 13.1$ (前期 $\Delta 34.0$ )で20.9ポイント改善した。

また、採算D Iも $\Delta 17.0$ (前期 $\Delta 34.1$ )と17.1ポイント、資金繰りD Iも $\Delta 9.5$ (前期 $\Delta 14.3$ )と4.8ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



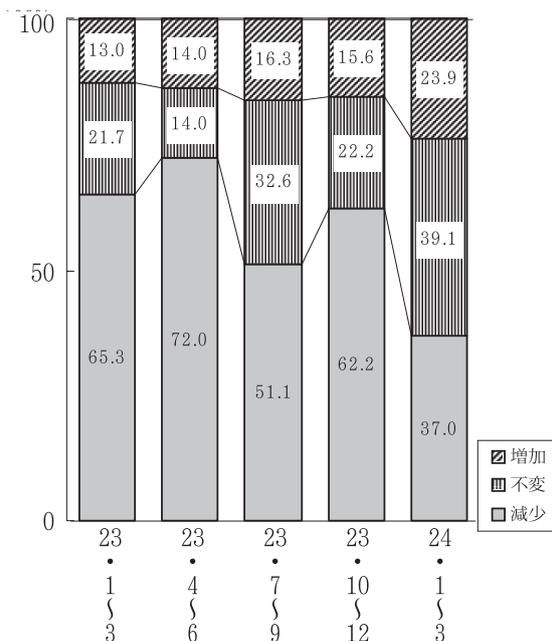
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 売上(収入)額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の23.9%(前期15.6%)で8.3ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は37.0%(前期62.2%)で、25.2ポイント減少した。

その結果、売上(収入)額D Iは $\Delta 13.1$ (前期 $\Delta 46.6$ )で前期比33.5ポイント改善した。

図4-2 売上(収入)額の状況  
(前年同期比)

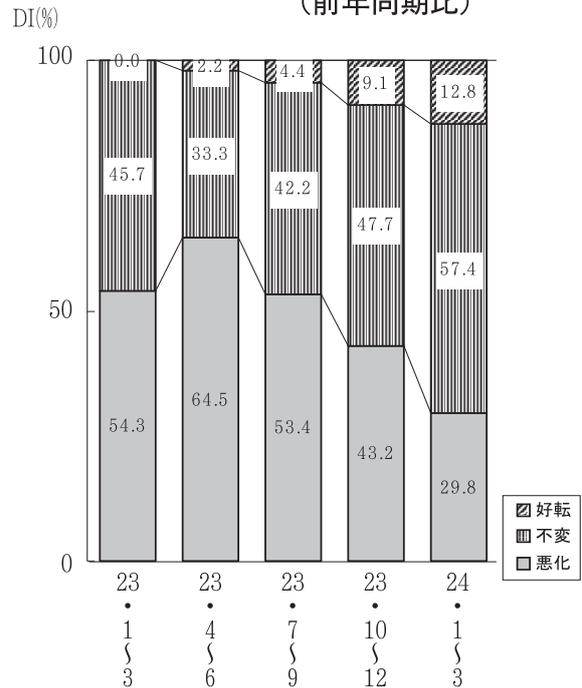


### (b) 採算

「好転・上昇」と回答した企業は全体の12.8%(前期9.1%)で3.7ポイント増加し、「低下・悪化」と回答した企業は29.8%(前期43.2%)と13.4ポイント減少した。

その結果、採算DIは△17.0(前期△34.1)となり、前期比17.1ポイント改善した。

図4-3 採算の状況  
(前年同期比)



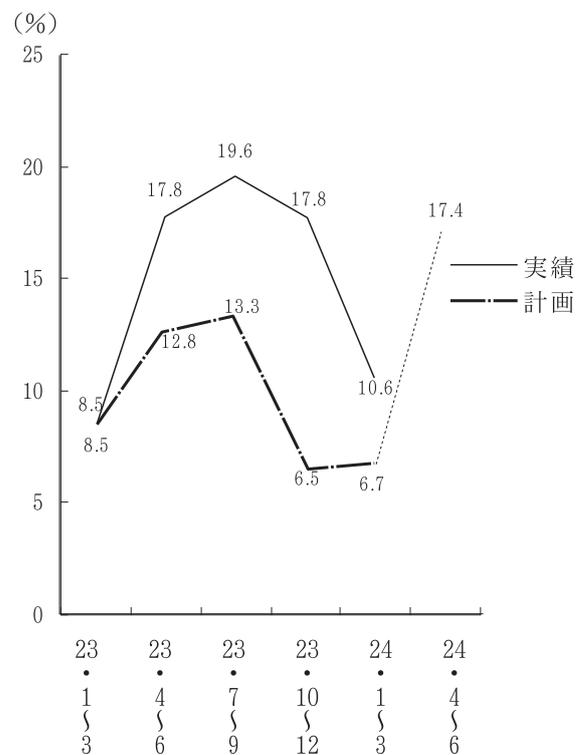
### (c) 設備投資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の10.6%(前期17.8%)で7.2ポイント減少した。

その設備内容は土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、17.4%であり、その内容も土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯設備、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

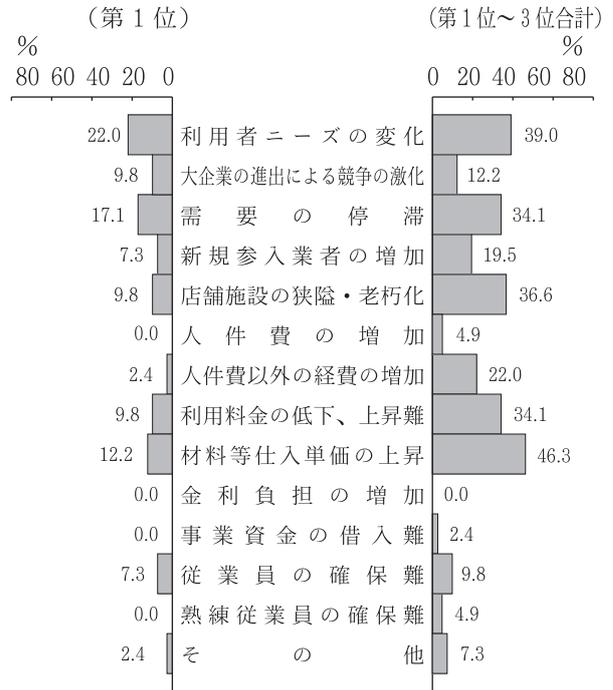


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「利用者ニーズの変化」(22.0%) 次いで「需要の停滞」(17.1%)、「材料等仕入単価の上昇」(12.2%)と続いている。

重要度第1位から第3位合計では、「材料等仕入単価の上昇」(46.3%(複数回答以下同じ)) 次いで、「利用者ニーズの変化」(39.0%)、「店舗施設の狭隘・老朽化」(36.6%)、「需要の停滞」と「利用料金の低下、上昇難」が34.1%と同率で続いた。

図4-5 経営上の問題点

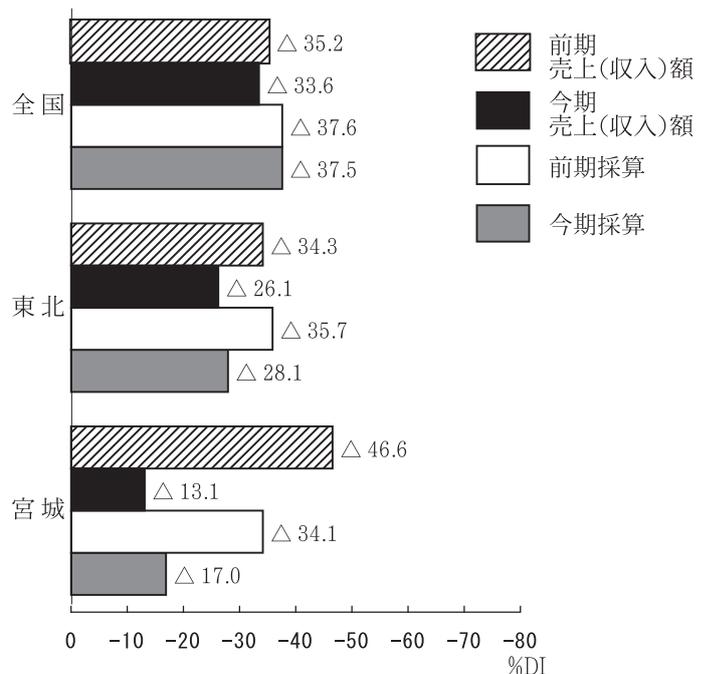


### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

全国、東北、宮城はいずれも売上額DI、採算DIを改善させた。

特に宮城は売上高DIを33.5ポイント改善し、採算DIも17.1ポイント改善した。本県回答事業所から「震災復興での全体的な出張者の増加により、業界全体(旅館・ホテル業)が忙しい状況となっている」「同業種店の休業により宴会の予約が増加し売上が伸びているが先行きは不安である」等のコメントが寄せられ、未だ震災の影響が大きいことが窺えた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較





古紙配合率70%再生紙を使用しています